
背中で確かめる恋

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

背中で確かめる恋

【Nコード】

N8844B

【作者名】

三毛猫

【あらすじ】

君は僕の大切な女の子。君を背負うのが僕の仕事。暖かい背中に僕は癒されている・・・

走ってくる足音ですぐに解る。

遠くからでも、人に紛れていても。

君はどんとぶつかるようにしがみ付いてくる。

腰に回される腕は握ったら折れてしまいそうだ。

それを外すことなく、首だけ回して君を見る。

「元気だな。三津季^{みつぎ}」

そう言つてせがまれるまま、三津季をおんぶして再び歩き出す。

三津季は嬉しいのか、俺の首に腕を回してしっかりとしがみ付く。

「伊津兄^{いづみ}、ねえ、重くない？」

伊津兄と呼ばれた俺、伊津季^{いづき}はクスツと笑う。

この年の離れた女の子は恥じらいを覚えたのだろうか？

それとも自分の成長を知らせたいのだろうか？

「重くなつてはきたけど、まだまだ軽いよ」

よつと掛け声をかけて、三津季を背負い直す。

赤ん坊の頃から背負っているが、重く感じたことはない。

三津季はしっかりと成長しているが、その分伊津季も成長しているからだ。

「早く、伊津兄みたいにおつきになりたいなあ」

伊津季の耳の後ろをくすぐるような声音に首をすくめる。

産毛のように柔らかい髪がうなじに当たってやっぱりくすぐったかった。

「なんで大きくなりたいんだ？」

くすぐったさも嬉しくて、楽しそうに問いかける。

一歩踏み出すたびに、三津季の頭がかくんと揺れる。

「早くおつきくなって、伊津兄のお嫁さんになる！」

元気よく言つて、ぎゅっと腕に力をこめる。

小さな女の子がかわいらしく告白する。

すぐに忘れてしまおうとしても、伊津季は嬉しかった。

「そうだね。三津季が大きくなったら俺のお嫁さんになってね」
密着する背中は温かく、決まった速度の鼓動が聞こえる。

とくん、とくん、とくん……。

命の鼓動。

今までも、これから、守りたいと思う。

「なあ？三津季？」

さっきより少しだけ重くなったような気がする。

吐息が規則正しい。

——寝たのか。

空は夕焼けに染まって真っ赤だった。

さあ、早く帰ろう。

三津季が風邪をひく前に温かくしてやらないと。

伊津季は背中で眠る温かな女の子を起こさないように歩く。

この日の約束は俺の心の中にしまっておこうと思う。

きつとこの女の子は覚えていないから。

——もし、覚えていたら……。

それは嬉しい誤算。

でもそうならいいと俺は思う。

ただもう少しだけ、この背に背負っていたい。

求められる限り、この背に。

しがみ付いてくる、君がこんなにも愛しいから。

（後書き）

こんな光景を見たらいやされるなあと思い、投稿しました。
評価いただけるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8844b/>

背中確かめる恋

2010年11月11日08時06分発行